

孤独のドクター

イグナーツ・センメルヴェイス 【後編】

それでも手を洗え!!

■ 19世紀中頃まで、妊産婦が出産後、突然高熱を発してそのまま死に至る産褥死は日常の光景だった。ある日、ウィーン総合病院第一産科に助手として勤務していたハンガリー人医師イグナーツ・センメルヴェイスは、医師の手が有毒な物質を媒介しているのではないかと仮説を立て、塩素消毒液（カルキ）での手洗いを導入することで妊産婦の死亡率を劇的に低下させた。これで多くの命が救われるはずだった。ところが…。



イグナーツ・セムメルヴェイス
医師 (Ignác Fülöp Semmelweis
1818 ~ 65)。

を備えた医師たちの存在だった。この当時、自らを、人の命を救う知的で高邁な紳士であると自負する医師が多かった。その紳士の手が不潔なはずがない。ところがセムメルヴェイスの仮説は「医師の汚染された手が妊産婦を殺してきた」と言っているのであり、誇り高き医師たちが受け入れられる内容ではなかった。



激しい拒絶反応

センメルヴェイスの仮説とは「清潔さを保つことで産褥死を防止できる」という極めて単純なものだった。ところが当時の医師たちはこの説に対して猛烈な拒絶反応を示し反発した。19世紀中頃まで、四体液説(よんたいえきせつ)という考え方が主流だった。これは血液、粘液、黄胆汁、黒胆汁の4種類を人間の基本的な体液とする体液病理説で、この4体液のバランスが崩れると病気になると考えられていた。そのため血液を排出させる瀉血(しゃけつ)治療が有効とされた。事実、瀉血で快復する患者もいた。皮膚にヒルを貼り付けて血を吸わせる治療も古くから行われていた。

死亡した妊産婦の遺体を解剖すると多岐にわたって合併症を発していたことから産褥熱は単体の病気でなく、様々な未知の病が複合的に引き起こすものと考えられていた。そのため手を消毒するだけで産褥死を防止できるというセンメルヴェイスの説は説得力に欠けた。最も厄介だったのが権威

センメルヴェイスと彼の同僚や生徒たちはヨーロッパ各地の産科病院に手紙を書き、彼らの研究成果を伝えた。1847年、オーストリアの医学雑誌がセンメルヴェイスの研究を紙面で紹介し「これは天然痘を制圧したエドワード・ジェンナー(英)の種痘法に勝るとも劣らない重大な発見だ」と称賛した。さらに教え子たちがまとめた解説書が英国やフランスの大手医学誌に紹介された上、ウィーンでの劇的な産褥死者数低減の成果がヨーロッパに拡散され始めた。塩素消毒法が多くの妊産婦の命を救うかと思われた。

ところが医学界ではセンメルヴェイス説に対する激しい拒絶反応が続いた。1848年、タイミンク悪くハンガリーで支配側であるオーストリア帝国を相手どつたハンガリー革命が勃発した。上司であったオーストリア人のクライン教授は、ハンガリー人であったセンメルヴェイスを日頃から好意的な目で見えていなかった。助手としての契約が切れるとクライン教授は契約延長

米画家ロバート・トムが想像で描いたウィーン総合病院第一産科で医師らの手洗いを確認するセンメルヴェイス医師(左上奥の左から3人目)。実際のセンメルヴェイスはこの時まだ助手で、30歳くらいの青年だった。© Robert Alan Thom

に慮(おぼ)えず、センメルヴェイスは第一産科を追われた。その後も病院に残れるよう活動したが認められることなく、居場所を失ったセンメルヴェイスは失意の中、ハンガリーに帰国した。1851年、センメルヴェイスは33歳という若さでペスト市内にあった聖ロクス病院の院長に就任した。無給の名誉職だった。6年の在任中、933人が同病院で出産したが、死亡したのは8人で死亡率は0.85%。センメルヴェイスは聖ロクス病院から産褥死をほぼ駆逐することに成功した。しかし当時のベスト大学産科の大病院教授エデ・ビルイは「産褥熱は腸の不衛生が原因である」と従来の主張を変えず、センメルヴェイスの仮説を黙殺し、腸内洗浄治療を続けた。1864年、ビルイが死んだ。その後任に選出されたセンメルヴェイスは早速、ペスト大学産科に塩素消毒を導入するだけでなく手術用の器具やリネン等の洗浄なども徹底させ、絶大な効果をもたらした。

夜明け前は思った以上に暗い

ドイツでも若いセンメルヴェイスの理論はこつぴどく否定された。白血病を発見し「病理学の法王」の座に君臨していたドイツ病理学界の最高権威ルドルフ・フィルヒョウが反対者の先頭にいたことが災(わざ)いした。ドイツ人医師たちのほとんどが大重鎮の前に沈黙した。「死体粒子が人間を死体に変える」とも聞こえるセンメルヴェイスの理論は科学が進み始めた時代にあつてむしろ非科学的なゾンビストーリーに響いた。英国ではセンメルヴェイスの説は比較的好意的に受け止められた。しかしそれは英国の医師たちの思い違いによるところが大きかった。産科医W・タイル・スマイスは当時、英国で盛んに言われていた「産褥熱は解剖室から漏れ出る瘴気(しょうき)しよき悪臭(あくしゅう)といふ水(みづ)によって引き起こされる」という既存の説をセンメルヴェイスが補足



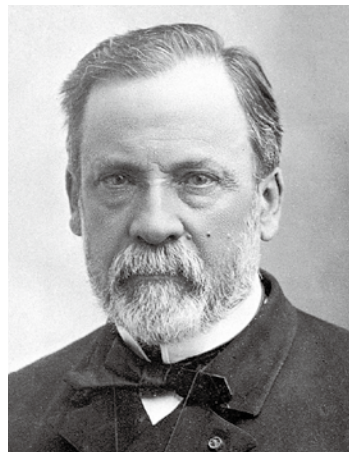
ドイツ病理学界の重鎮ルドルフ・フィルヒョウ。

したのでと結論付けたため画期的な新説とは理解されなかった。センメルヴェイスが訴えていたのは遺体が発する腐敗性有機物質であつて、解剖室内の汚染された空気や水とは似て非なるものだった。そのためセンメルヴェイスが力説した「手を洗浄せよ」という最も重要なメッセージがスッポリ抜け落ちてしまった。1858年、ドイツ語が苦手な論文執筆者や講演を避けていたセンメルヴェイスもここに至り、ようやく自著をたたためた。「産褥熱の病理学」、さらに2年後に「産褥熱に関する私と英国医師たちの見解の相違」と立て続けに論文を出版。さらにその翌年「産褥熱の病理。概要と予防法」を刊行した。この中でセンメルヴェイスは「私はどの医師よりも多く解剖を行った。汚染された私の手が墓場に送ったご婦人の数は神のみぞ知る」と懺悔する一方、著書の中で医学界がなおも頑なに手洗いを受け入れない姿勢を嘆き、猛然と攻撃した。これに対してプラハの産科医アウグスト・ブライスキはセンメルヴェイスの著作を「幼稚だ」とこき下ろし「産科神学のコラーン」と皮肉つた。また、コペンハーゲンの産科医カール・エヴィは「死体粒子」なるものの科学的検証がなされていないことを指摘し、論外に標本数が少ないと酷評。非難合戦は泥沼化した。確かにセンメルヴェイスの理論はあくまでも状況証拠の積み重ねであつて、物的な証拠が何一つ示されていない



ジョゼフ・リスター (Joseph Lister 1827～1912)。スコットランド出身の外科医。手術後に傷口が化膿するのは細菌による汚染が原因だと考え、手術器具等をフェノールで消毒するよう提唱した。

やがてセンメルヴェイスの行動は常軌を逸し始めた。目に見えて酒量が増え、妻に異常な性的行動をとるようになった。家族の元に寄り付かなくなると売春宿に出入りする姿が目撃されるようになった。1865年夏、センメルヴェイスのあまりに過激な対外攻撃に、数少ない理解者たちも困惑を隠せなくなった。友人や妻らはウィーンに新しく設立する医療機関に席が用意されていると偽ってセンメルヴェイスを誘い出し、精神病院に送り込もうとした。途中、罠だと勘づいたセンメルヴェイスはその場を立ち去ろうとしたが数人の警備員に取り押さえられ、激しい暴行を受けた上に拘



ルイ・パスツール (Louis Pasteur 1822～95) フランス出身の生化学者・細菌学者。ロベルト・コッホと共に「近代細菌学の開祖」と称される。牛乳やビール等の腐敗を防ぐ低温殺菌法を開発したことも知られる。

た。パスツールが細菌の存在を明らかにする日が間近に迫っていたが、この時まだ医学は夜明け直前の暗い時代であった。

非業の死



医学界からの激しいバッシングは次第にセンメルヴェイスの精神を蝕んで行った。重度の躁鬱症状を発し気分も乱高下した。最後の著書「産褥熱の病理。概要と予防法」に対する批判の聲が上がるとセンメルヴェイスはヨーロッパ中の著名な医師や全ての産科医に向けて公開書簡の形で激しく反撃した。その内容は悲痛と絶望、憤怒に満ち溢れ、センメルヴェイスに批判的な産科医たちを「無知で無責任な殺人犯ども」と痛烈に罵倒した。

一方でセンメルヴェイスは業績とは全く別の形でその名を現代に残すこととなった。「センメルヴェイス反射」。これは人々が目の前に突きつけられた新事実に対して見せる拒絶傾向のこと、特に既成事実化した事象が根底からひっくり返されるような状況で頻発する。例えばガリレオの「地動説」やダーウインの「進化論」、ジェンナーの「種痘」のように。そして小さなセンメルヴェイス反射は今も世界中の会議室で毎日のように発生し、画期的な企画や斬新なアイデアをひねり潰し、闇に葬り去っている。今も世界のどこかに小さなセンメルヴェイスは大勢存在する。

点赤痢 (赤い点状の膿) は、赤痢菌 (大腸菌の一種) が腸壁を侵襲することによって起こる。赤痢菌は、糞便中に含まれる。赤痢菌は、糞便中に含まれる。



東衣を着せられて真つ暗な独房に放り込まれた。治療と称して冷水を浴びせられ、下剤としてひまし油を飲まされた。それから2週間後の同年8月13日、センメルヴェイスは暴行を受けた際にできた傷がもとで、敗血症で死んだ。47歳だった。2日後、ウィーンで行われた葬儀に出席した者はわずかだった。多くの医師が厄介者の訃報に密かに胸を撫で下ろした。手洗いを止めたペスト大学では産褥熱による死者数が6倍に跳ね上がった。センメルヴェイスの死と共に多くの女性たちが母として生きる喜びを奪われた。

センメルヴェイスの死後、パスツールやコッホによつて細菌の研究が飛躍的に進み、英国人外科医リスターが消毒法を確立したことでセンメルヴェイスの正しさが次々に証明された。センメルヴェイスの功績を認めたブダペスト大学は校名をセンメルヴェイス大学に改めた。

医療現場を扱った映画やテレビドラマ等では医師たちが真新しい手術着を身にまとい、手や腕を丁寧に消毒し、新品のゴム手袋やマスクをつけて颯爽と手術室に向かう姿が映し出される。コロナ禍にあつてWHO (世界保健機構) は感染予防の最も有効な手段の一つとして手洗いを推奨した。そして石鹸で手を洗い、除菌に努めることが日常の光景となった。人類こぞつての手の平返しにセンメルヴェイスは今頃天国で「だから手を洗えと言っただろう」と怒りながら大酒をあおっているのかもしれない。(一)

医療現場を扱った映画やテレビドラマ等では医師たちが真新しい手術着を身にまとい、手や腕を丁寧に消毒し、新品のゴム手袋やマスクをつけて颯爽と手術室に向かう姿が映し出される。コロナ禍にあつてWHO (世界保健機構) は感染予防の最も有効な手段の一つとして手洗いを推奨した。そして石鹸で手を洗い、除菌に努めることが日常の光景となった。人類こぞつての手の平返しにセンメルヴェイスは今頃天国で「だから手を洗えと言っただろう」と怒りながら大酒をあおっているのかもしれない。(一)



清潔な水が手に入りづらかった時代、手洗いすら簡単なことではなかった。

参考資料... Ignaz Semmelweis Britannica / The Doctor Who Championed Hand-Washing And Briefly Saved Lives npr 他